

(事後評価)

先端学際プロジェクトによる若手人材の育成

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：横浜国立大学（総括責任者：鈴木 邦雄）

プロジェクトの概要

学際プロジェクト研究センターに戦略的研究領域を設定して、人事協議会による透明性の高い人事システムを構築し、国際公募によって特任助教を採用する。助教は独立した研究者として予算とスペースの配分を受け、教授・准教授と共に取り組む学際プロジェクト研究へ参加して研究を行い、同時に大学院生への指導の機会も与えることによって教育の研鑽を積み、5 年以内にテニユア審査を受けて、本学または他機関のテニユア職に就く。本事業および自主的な取組によって全学に TT 制度を定着させ、広い視野を持つとともに教育資質も十分に備え、また社会に繋がる独創的研究を遂行できる新しいタイプの若手研究者・教員を育成するシステムのモデル構築を目指す。

1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	b	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクト開始以前から、若手研究者を研究主宰者と認めた助教、任期付の研究教員及び教育研究を補佐する助手に区分した新たな人事制度を導入しており、数少ない若手教員ポストを活用したテニユアトラック制（以下「TT 制」という。）の導入・定着を図っていることは評価できる。今後は、確立された透明性の高い選考・採用及びきめ細かい業績評価やテニユア審査の方法を踏襲しつつ、助教ポストがない部局への TT 制導入を期待する。

- ・ **目標達成度**：「学際プロジェクト研究センター」を設置し、テニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）を一棟に收容してネットワーク構築とともに互いに競わせるなど、TT 若手の意欲を引き出している。本プロジェクトと並行して自主経費による TT 制を進めており、人材養成システム改革を進展させたことは評価できる。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：本プロジェクトでは女性研究者 1 名の採用にとどまってい

るが、研究費などを含めてすべてを自主経費によって育成する外国籍研究者1名、女性研究者2名を採用し、多くの段階を経たきめ細かなプロセスによる業績評価やテニユア審査を実施し、公正性や透明性を確保していることは評価できる。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：透明性の高いテニユア審査基準を学内に公開し、公平なテニユア審査を実施していることは評価できる。しかし、テニユアポストを用意している部局の意向に基づいてテニユア職に採用するため、一部のTT若手のトラック期間が短くなっていることから、TT若手個々の状況に配慮した育成システムを確立することが必要である。
- **制度設計に対するマネジメント**：十分なトラック期間を経ない早期のテニユア職採用が多いものの、TT制を含む若手研究者人事制度の改革を全学的に進めていること及びライフイベントに対する施策を実施していることは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：本プロジェクトと並行して自主経費によりTT若手を採用しており、全学レベルでのTT制定着を目指していることは評価できる。今後は、助教ポストがない部局へのTT制導入の促進を期待する。
- **中間評価の反映**：外国籍研究者の採用に努力していることは評価できる。一方、TT若手の選考・採用について外部有識者の参画によって公平性・透明性を高めるとともに、TT若手の自立性を確保したメンター教員によるきめ細かい支援を期待する。